

「ブランド京野菜」認証事業発足20周年を記念し、南丹地域の京野菜生産者約300人が南丹市国際交流会館に集いました（南丹地域特産物育成協議会主催）。京都青果合同株式会社の松本雄治氏は「メディアを利用した宣伝と消費者ニーズを的確に捉えた販路の開拓が必要」と講演。

2市1町の生産者3組による発表では、20年前にみず菜農家に転身された八木町の綿井幸二さんが、苦勞の体験や息子が新たな農業の担い手となった喜びを述べられました。



▲みず菜栽培20年の苦樂を語る綿井さん

「新鮮な『おいしい』京野菜農家はがんばっています」
「家庭に届ける」

（2 / 27 京野菜生産者のつどい）

みんなのひろば

まちの話題を紹介します



日吉国際交流協会臨時総会記念事業として同協会主催の「楽しい文化サロン」がとくほーる（日吉殿田活力増センター）で開催されました。（財）京都府国際センター登録ボランティアの方4人が海外生活の体験談や思い出、苦勞話をそれぞれ紹介。次に兵庫県篠山市の「モンゴルの里」で生活するス・ポイントクス君が、ため息の出るような見事な馬頭琴の演奏をし、妹のス・ホロンタイちゃんがかわいらしい歌声を披露。そして、南丹市在住の徐希寧さんが、韓国重要無形文化財指定の伝統的な韓国舞踊を優雅に演舞し、およそ50人が異文化芸術に触れるひとときを過ごしました。

日吉国際交流協会は同日開催された臨時総会において、3月28日に設立する南丹市国際交流協会への移行を決定し、市全域への拡大に向けた発展的な解散となりました。

「すぐそばにある異文化との出会い」

（3 / 15 第3回楽しい文化サロン）

「手足と勇気で登る15mの壁に挑戦！」

（3 / 20 親子防火クライミング教室）



▲登りはもちろん、下降するのにも勇気が要る！

山岳救助隊の訓練施設として園部消防署日吉出張所に設置された人工壁を使ってロッククライミング体験が行われました。参加した24人の親子らは指導を受けた後、赤、青、黄、緑のホールドが取り付けられた15mの垂直の壁に次々と挑戦。思うように登れない悔しさと恐怖心から泣き出す子や、「次は赤色だけで登る！」と何度も挑む子もいました。原野信孝園部消防署長は「将来消防士を目指してくれる子どもが増えることを期待します」と話されていました。



▲静と動が織り成す優雅な韓国舞踊を披露する徐さん